

登校日

2020.4.22

一斉臨時休業となり今日が2日目である。今回の場合は、適宜登校日を設定してよいことになっている。助かった。これがあるとないとでは大違いである。

全校生を同じ日に同じ時間帯に登校させる方法もあるが、この状況では適切な方法とは言えない。時間帯をずらして学級単位、学年単位で登校させることも考えられる。これも「密集」になってしまう。そこで、先生方の思い、やりたいこともあるので、登校日の設定に関しては各学年に任せることとした。

その結果は、どの学年も「個別面談」の実施となった。もちろん2mの距離をとってのことである。3年生は、これに加えて学級ごとに登校して進路学習も行う。一斉指導と個別指導を組み合わせただけである。

指導の効率を考えれば、一斉に集めた方がよい。だが、本校の先生方は、生徒一人一人の方を選択した。これならば、個々の状況に合わせてじっくりと指導ができる。何よりも生徒が先生方と話すことができる。基本的に自宅にいる時間が長くなる状況においては、人と話すことは非常に大切なことになってくる。個別面談は、その意味でも効果的な方法である。

面談では、家での生活の状況、学習の進み具合などを中心に、困っていることや悩みなども聞くことができる。生徒からすれば話すだけでスッキリすることもあるかもしれない。3年生は、進路に対する不安もあるだろう。先生方は、親身になって考えてくれるはずである。

生徒には、臨時休業となり、思いがけず時間ができたがためにできることがある。教職員もそうである。授業がない分、この期間にできることもある。例年の場合だと、定期考査期間中や長期休業中など、少しは余裕があるときでないとできなかった“研修”などがそうである。中には、できる限り早い時期に行いたいものもある。ものごとにはタイミングというものがある。

急遽、臨時休業中にできる研修はないか検討することにした。予定を遅らせることは容易だが、繰り上げるのにはエネルギーがいる。それでも、研修が生徒のためになると考えれば、先生方は動いてくれる。

私としては、この臨時休業中にできることはやってしまっ、て、学校が再開され生徒が戻ってきたら、エンジン全開で教育活動にあたりたいのである。例年よりも授業日数は短くなっても、その分、質を上げたい。

対外的な行事もそうだが、校内行事も予定通りには実施できず、縮小開催、延期、中止などの検討を余儀なくされている。どれ一つとして「例年通り」や「前年度踏襲」はない。検討を重ねていくと、一つ一つの行事の意義やねらい、教育的な効果などが浮き彫りになってくる。今までは当たり前のように実施していたものも、その実施方法を工夫したり、削れるところを削ったりとその必要に迫られる。

今回の臨時休業では、家庭への電話連絡や必要に応じての家庭訪問を行うが、最も効果的な教育は「登校日」になるだろう。先生方は、一人一人の生徒に思いを込めて話をするだろう。これこそ梁川高校の手厚い指導の真骨頂である。一人一人の生徒が、自分の登校日に学校から下校するときの表情が今から楽しみである。